

「ピアノコンクールに寄せて」

ピアノは、不思議な楽器です。打楽器でもあり、弦楽器でもあり、鍵盤楽器でもあります。音域は楽器の中で最大の幅を持っていますし、豊かな音量と表現力により、ピアノだけでオーケストラ的な音楽表現も可能となる、楽器の中の王様とも言われる存在です。

ピアノは、私の一番好きな楽器でもあります。私とピアノとの出会いは、小学校4年生の時。アップライトのピアノが我が家に登場したのに合わせて「バイエル」を教わり始めた時からだと記憶しています。その後、「バイエル」を一通り終え、「ツェルニー」と「ソナチネ」を少しかじりかけた小学校6年生の時に、ピアノの稽古をやめてしまいました。今から考えれば、あのままずっと続けていれば、と残念に思いますが、ピアノを習っていたおかげで、譜面が読めるようになったことと、ピアノの練習を通して、音楽というものに触れ、趣味としてずっと楽しめる基礎ができていたことは本当に良かったと思っています。

その、ピアノという素晴らしい楽器を題材にして、高松の街と文化を全世界に発信しようとする国際的イベント、「第2回高松国際ピアノコンクール」がいよいよ3月17日にサンポート高松で開幕します。今回も26の国と地域から総数243人の応募があり、予備審査で選ばれた40人（日本人14人・外国人26人）の新進気鋭のピアニストが世界中から高松の地に集結し、その技量と芸術性を競い合いながら、素晴らしい演奏を私たちに聴かせてくれるものと、期待が高まっています。

今年、ピアノの詩人・ショパンの生誕200周年の記念の年でもあります。10月には、5年に一度開催され、最も歴史が古く、権威があるといわれている「第16回ショパン国際ピアノコンクール」がワルシャワで開かれます。その意味でも今年、世界的にピアノという楽器やその音楽演奏に注目が集まり、大きな話題を呼ぶことが予想されています。高松国際ピアノコンクールはその盛り上げ役としても、一役買うことになるでしょう。本当に楽しみです。

ピアノという鍵盤楽器がまさしくキー（鍵）となり、高松の新しい芸術文化のステージの扉を開いてくれることを期待したいと思います。